

令和3年度 「事業報告」

1. 当年度の概要

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が北海道に発令されるなど、コロナウイルス変異株に翻弄された1年だったと言える。卒業した3年生は、2年次の学校行事はほとんど中止になってしまった。例年2年次に計画してきた修学旅行も、その頃には落ち着いてきているだろうと予測して翌年に延期したが、結局は中止せざるを得なかった。遠足も、学校祭も然りであった。仲間と一緒に、かけがえのない高校時代の楽しい思い出は取り戻すことができないが、三年次には、できる方法で思い出作りをしようと、函館市民体育館アリーナでのスポーツ大会や生徒だけの学校祭を実施し、ファッションショーなどの思い出を作ることができた。現2年の修学旅行は12月に通常通り実施された。

また、生徒募集も本校の特色教育がコロナ禍で大きな打撃を受けてしまった。家政科と普通科は例年通りの入学者数だったのだが、福祉科と食物健康科は福祉施設でのクラスター発生や飲食店における制限、人員整理、閉店などで、介護福祉士や調理師を養成する本校にとってネガティブな情報に振り回された結果、二科の入学者数が当初の予想を大幅に下回った。オープンスクールの中止もあり、前年度比-43名の104名の入学者となった。

とどまるところを知らない中卒者減少、災害とも言える新型コロナウイルス感染症という二重苦の厳しい状況ではあるが、従来通り建学の精神と特色教育を大黒柱に、ぶれることなく、目の前にいる生徒たちの将来の幸せを願い、私学としての大妻の教育を推し進めたい。「資格は生きる力となり、一つの資格は二つ目の資格の扉を開ける」と信じている。社会で活躍できる有為な女性の育成を目指して、新年度も募集活動を展開していきたい。

2. 各科の概要

(1)家政科

家政科学習報告会が函館市芸術ホール大ホールで実施された。今年は元ミスユニバースジャパンの最終選考まで残り、その後もモデルとして活躍している本校家政科卒業の石井千恵さんをゲストに招いた。生徒が作ったドレスを身にまとい、ステージ上に現れた瞬間から視線を独り占めしていた。ファッション造形コースは、従来実施してきた時代に合わせたデザイン画講習やネイル、ハーバリウムは中止し、家庭科技術検定の上級の資格取得に力を注いだ。子ども文化コースも、外部講師の授業を少なくして保育技術検定の資格取得に注力し、1級4種目にチャレンジするため放課後自主的に残って練習に励んでいた。

(2)福祉科

昨年まで5年連続100%を達成していた介護福祉士国家試験だが、今年は15名受験中14名の合格だった。合格率は93.3%、全国は72.3%であった。大学は日本社会事業大学に合格するなど、進学、就職とも例年通り100%の達成率だった。特に今年は例年と違い、福祉施設関係への就職者が進学者を上回った。また、札幌方面の福祉施設に3名就職したのは、

近年に無い特色で、これまでは 1 名程度でほとんど市内もしくは近郊への就職だった。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、福祉施設での実習が思うようにできず、工夫しての校内実習が主になった。

(3)食物健康科

これまで、調理技術の向上や地域とのつながりを重視して幼稚園児やグループホームの入所者、本校の他の学科の生徒へのランチ提供など、本校に招待して料理の提供を行ってきたのだが、今年も新型コロナウイルス感染症のため中止となった。その中で、感染症対策をして実施した行事を紹介します。

- ①福祉科の先生が授業する「健康福祉」で、栄養バランスを考え幼稚園児に喜ばれる弁当を提供する実習が行われ、ランチボックスを園に届け喜ばれた。
- ②自分たちで田植えをし、稲刈りをした「ふっくりんこ」で特製弁当『大妻日和』を集団調理し、北斗市のあぐりへい屋で販売したのだが、早い人で朝 6:30 から並び、10 分ほどで 100 枚の前売り券が完売する人気だった。
- ③調理実習最後の総仕上げ。3 年間の成果として和食のフルコースを先生方や保護者に提供。各班が持ち寄ったメニューを精査し、偏らないように調整し、決定したら試作の開始。味見をしてまた試作。保護者は各家庭 2 名までで、前半・後半に分かれて提供でした。

(4)普通科

新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、総合的な探求の時間に上級学校や職能団体から講師を招くなど、授業計画に「キャリア教育」を組み込み、例年通り進路を意識した取り組みを実施している。基礎学力向上を目指した「大妻ベーシック」や、大学・看護学校・専門学校への進学を視野に入れた「大妻アドバンス」も軌道に乗ってきており、楽しく学んで力をつける教育を実践している。また、進路指導部を中心に実施している看護説明会や歯科衛生士説明会、リハビリ系説明会、自衛隊説明会などの各種説明会にも積極的に参加し、進路実現に向けて取り組んでいる。

3. 部活動の状況

運動部 6 部すべてが全道大会出場を果たした。特に陸上部は支部大会総合優勝を果たし、中でも競歩、砲丸投げ、円盤投げの 3 種目はインターハイに出場した。U18 全国大会では 5 位に入賞した。また、ソフトテニス部は個人・団体完全制覇し、向かうところ敵なしの勢いである。卓球部もバレーボール部も優勝カップを手中にした。バスケットボール部は準優勝し復活の兆しがあり、バドミントン部も 3 位で全道大会出場の切符を手にした。

文化部では、吹奏楽部が支部大会で金賞を射止め 2 大会連続 3 回目の全道大会出場を果たし、今後に大きな期待を抱かせてくれた。放送部の生徒は、放送コンテスト全道大会の朗

読部門で 2 位の成績を収め、来年東京都で開催される全国大会（総文祭）出場権を獲得した。この他、部活動ではないが、「税に関する高校生の作文」で税務署長賞、函館市の青少年活動を賞する青少年ジュニア活動賞を受賞した生徒もいた。

4. 教育環境の整備

令和 5 年 10 月の創立 100 年に向けて、平成 25 年から教育環境の整備を逐次推進してきており、ハード面においてはほぼ終了している。今後は ICT 化を始めとしたソフト面の充実が課題になってくる。校内の Wi-Fi 整備も完了し、電子黒板やプレゼンテーション用のプロジェクターを設置した多目的教室に、一人一台のタブレットも導入したが、全校生徒に PC を持たせるかどうか検討しなければならない。他高に比べて遅れていることは否めないが、本校のような技術を専門に教授する学校は、普通高校と違って容易に結論を出せない。例えば、縫い物をする場合、先生方が机間巡視をしながら生徒の手元を見て、間違っていたらその場でその生徒に手本を見せながら直接指導しなければ着物にならないからである。このことは福祉科や食物健康科にも言えることで、対面授業でなければ技術の伝授ができない専門高校の難しさとも言える。普通科では BLEND による各家庭一斉通信が可能であり、既に実施している。

5. 経営力の強化

私学の収入は生徒数の増減に比例する。主要財源の授業料収入を増やすためには、生徒数確保が必須条件になる。事業活動収支はプラスを確保しているが、今後、中卒者の大幅減少が予測され経営環境が厳しくなる中で、生徒募集活動に一層注力していかなければならない。今まで以上に経費節減や経営の効率化に取り組む必要がある。

また、建学の精神に基づく教育内容の充実や魅力ある学校づくりは、経営改善と両輪であると言える。「寄り添いながら与える教育」「楽しく学んで技術力を身につける教育」を実践しなければならない。この両輪が回って初めて経営力が強化されると考えている。